

# 友だちにすすめたい好きな本

表紙 (詳細ヘリンク)	『書名』 (作者等) / おすすめの言葉 (出版社)
	<p>『5分後に意外な結末』シリーズ (学研教育出版 編) 一つの話が3～4ページで終わる短編小説なので読みやすかったです。発想がすごく、ワクワクしながら読めました。 (学研プラス)</p>
	<p>『かがみの孤城』 (辻村深月 著) 普通の中学生に起きた不登校と奇怪ファンタジー。現実世界の不安、恐怖。時空を超えた仲間との絆。「生きて。」力強い言葉が胸に響きます。 (ポプラ社)</p>
	<p>『青鬼』公式ノベルシリーズ (noprops 原作/黒田研二 著/鈴羅木かりん 挿画) これは、ジェイルハウスに潜む怪物「青鬼」に立ち向かっていく6人の男女のストーリーです。 (PHP研究所)</p>
	<p>『ぼくらの七日間戦争』 (宗田理 著) 同世代の中学生が悪い大人たちに立ち向かいます。中学生が夏休みに大人と七日間戦いをくり広げる中、仲間の一人が・・・。 (KADOKAWA/角川つばさ文庫)</p>
	<p>『Re:ゼロから始める異世界生活』シリーズ (長月達平 著/大塚真一郎 イラスト) 異世界へ飛ばされ何度も同じ時を繰り返す中、困難を乗り越えて成長する主人公。応援したくなります。 (KADOKAWA/MF文庫J)</p>
	<p>『カラフル』 (森絵都 著) 人にはたくさんの感情があり、人はたくさんの色をもっています。例えば、悲しいという感情も人によって色は違います。そんな本です。 (文春文庫)</p>
	<p>『こちらパーティー編集部っ！』シリーズ (深海ゆずは 作/榎もりか 絵) ゆのはハイパー元気だけど運動も勉強も苦手。そんなゆのの夢は「幻の雑誌」の復活！ゆのの夢の行方は！？ (KADOKAWA/角川つばさ文庫)</p>
	<p>『ブレイブ・ストーリー』 (宮部みゆき 著) 理不尽な現実を変えたいと願う少年が異世界へ行き、そこで出会う様々な人々と共に成長するストーリーが魅力的です。 (KADOKAWA/角川文庫)</p>
	<p>『天久鷹央』シリーズ (知念実希人 著) 鷹央の普段の自由気ままな姿と、謎を解くときのギャップがカッコいいです。 (新潮社)</p>
	<p>『推し、燃ゆ』 (宇佐見りん 著) 推しに人生をかける主人公。推しがファンを殴った事実を受けとめても、自分の人生と現実の辛さに向き合う主人公が描かれるお話です。 (河出書房新社)</p>

表紙画像が詳細情報ヘリンクします。書店や図書館で本を探す際に御確認ください。

表紙 (詳細ヘリンク)	『書名』（作者等）／おすすめの言葉（出版社）
	<p>『桐島、部活やめるってよ』（朝井リョウ 著）            いろいろな事情を抱えた高校生たちの悩みを解消していく物語です。高校生たちの悩みが重すぎて、自分の悩みを忘れられます。（集英社文庫）</p>
	<p>『薬屋のひとりごと』（日向夏 著）            主人公のわかりやすい推理と、あとになって少し前の事件とつながるところが面白く、一つ一つの話が分かれていて読みやすい本です。（主婦の友社）</p>
	<p>『シャーロック=ホームズ全集』（コナン・ドイル 作／各務三郎 訳）            有名な探偵ものです。事件にはドキドキするし、ホームズの推理にはしびれます。名前を知っていても、読んだことのない人も多いのでは？（偕成社）</p>
	<p>『吹部!』（赤澤竜也 著） 教師らしからぬミタセンが顧問になった弱小吹奏楽部が、ぶつかり合いながらも一つになり、全国大会をめざす爽やか青春小説です。（KADOKAWA／角川文庫）</p>
	<p>『ソードアート・オンライン』シリーズ（川原礫 著／a b e c イラスト）            色々な世界で時には必死に、時には楽しく、時には命を懸けて戦ったり攻略したりする本です。ぜひ読んでください！（KADOKAWA／電撃文庫）</p>
	<p>『ディズニー おもてなしの神様が教えてくれたこと』（鎌田洋 著）            実際にキャストがゲストにどのように接しているかがわかりました。短いストーリーが集まっているので読みやすいです。（SB Creative）</p>
	<p>『天国の犬ものがたり』シリーズ（藤咲あゆな 著／堀田敦子 原作／環方このみ イラスト） 人と犬の暮らしなどを書いた、感動して、心温まる本です。私はこのシリーズが大好きで、いつも元気もらっています。（小学館）</p>
	<p>『天国までの49日間』（櫻井千姫 著） 人は誰もいつかは死んでしまう。人間の一生は死んで終わりではなく、天国に行くか地獄に行くのかは、自分自身で決めることなのです。（スターツ出版）</p>
	<p>『僕の永遠を全部あげる』（汐見夏衛 作／ふすい 絵）            顔にアザがあり、暗い性格の千花。そんな千花と仲良くなりたいという謎の少年。途中切なく、だけど温かい青春ストーリーです。（一迅社）</p>
	<p>『僕は上手にしゃべれない』（椎野直弥 著）            この本は、吃音症の主人公が弁論大会に出場し、話すことに抵抗を感じなくなっていく本です。（ポプラ社）</p>

[他の本もホームページで紹介しています。ぜひご覧ください。](#)

# 子どもに読んでほしい本

表紙 (詳細ヘリンク)	『書名』（作者等）／おすすめの言葉（出版社）
	<p>『<b>アルジャーノンに花束を</b>【新版】』（<b>ダニエル・キイス 著／小尾美佐 訳</b>）          幼児並みの知能しかないチャーリーが実験的な手術により知能を得ていく。知は人を幸せにするのか。翻訳の素晴らしさも味わえます。（早川書房）</p>
	<p>『<b>かがみの孤城</b>』（<b>辻村深月 著</b>） 学校で居場所をなくした主人公が、鏡の中で6人の少年・少女と願いを叶える鍵を探す。全てがわかるラストでは胸が熱くなる感動作です。（ポプラ社）</p>
	<p>『<b>なぜ僕らは働くのか</b>』（<b>池上彰 監修／佳奈 漫画／モドロカ 画</b>）          なぜ勉強するのか、働くとはどういうことなのか。今、未来の自分のために何をしたらいいかを考えるきっかけになると思います。（学研プラス）</p>
	<p>『<b>博士の愛した数式</b>』（<b>小川洋子 著</b>）          「数学の美しさ、魅力」と、非常に真つすぐな「思いやり」が詰められた作品です。数学に苦手意識がある人にもおすすめの一冊です。（新潮社）</p>
	<p>『<b>ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー</b>』（<b>レイディみかこ 著</b>） 英国で暮らす中学生「ぼく」の生活は人種差別やジェンダー等、毎日が事件の連続です。驚き、考えさせられるノンフィクション本です。（新潮社）</p>
	<p>『<b>モモ</b>』（<b>ミヒヤエル・エンデ 作／大島かおり 訳</b>）          時間どろぼうと盗まれた少女の不思議、想像力。今をどう生きるかの物語です。（岩波少年文庫）</p>
	<p>『<b>14歳の君へ どう考えどう生きるか</b>』（<b>池田晶子 著</b>）          習うより前に、自分で探し考えたい本当の道徳。中学生の身近な話題から人間の心の奥にせまります。（毎日新聞出版）</p>
	<p>『<b>あと少し、もう少し</b>』（<b>瀬尾まい子 著</b>）          寄せ集めの6人が襷をつなぐ中学校生活最後の駅伝大会。それぞれの想いとそれを見守る先生の言葉に胸が熱くなります。（新潮社）</p>
	<p>『<b>風が強く吹いている</b>』（<b>三浦しをん 著</b>）          駅伝を走る学生たちの生きる世界を知り、感動しました。お正月の箱根駅伝を順位しか見ていなかった視点が変わり、興味をもちました。（新潮社）</p>
	<p>『<b>カラフル</b>』（<b>森絵都 著</b>）          「自分にはない自分」をテーマに置きながらも、思春期の子どもがどう自分の色を出していくのかを書いている素敵な小説です。（文春文庫）</p>

表紙画像が詳細情報ヘリンクします。書店や図書館で本を探す際に御確認ください。

表紙 (詳細ヘリンク)	『書名』 (作者等) / おすすめの言葉 (出版社)
	<p>『<b>きみの友だち</b>』 (重松清 著)          本書を読み終えて、自分にはちゃんと「友だち」と呼べる人がいることに気が付きホッとすると同時に、その存在に改めて感謝しました。 (新潮社)</p>
	<p>『<b>新編 銀河鉄道の夜</b>』 (宮沢賢治 著)          ジョバンニとカムパネルラの鉄道の旅で、本当の幸せとは何かを探ることの大切さと命の重みを感じました。 (新潮社)</p>
	<p>『<b>三国志</b>』 (吉川英治 著/士林誠 イラスト)          中国の三国時代に世の中の乱れを憂いた青年たちが天下泰平という大志を抱き、群雄割拠する一大スペクタクルに自分も触発されました。 (星海社)</p>
	<p>『<b>夏の庭 - The Friends -</b>』 (湯本香樹実 著)          少年たちはある老人の死にゆく姿を見なかった。好奇心から始まった少年たちと老人との交流は思いがけず温かい優しい日々へと続きます。 (新潮社)</p>
	<p>『<b>ハリー・ポッター</b>』シリーズ (J.K.ローリング 作/松岡佑子 訳)          1990年のイギリスが舞台で、魔法使いが存在する世界の物語。孤独な主人公が友情・仲間・家族愛などにふれながら成長していきます。 (静山社)</p>
	<p>『<b>ひと</b>』 (小野寺史宜 著)          ひととひととの出会いの奇跡、つながりの温かさを感じられる、何気ない毎日を大切に過ごしたくなる心に響く物語です。 (祥伝社)</p>
	<p>『<b>陸王</b>』 (池井戸潤 著) 老舗足袋店である「こはぜ屋」が経営困難に陥ってしまいます。様々な出来事が起こりますが、テンポよく、夢に向かっていく姿に共感できます。 (集英社文庫)</p>
	<p>『<b>蜜蜂と遠雷</b>』 (恩田陸 著)          ピアノコンクール優勝をめざし、奮闘するピアニストたちの姿に引き込まれました。実際にピアノを聴いているような描写が素敵です。 (幻冬舎)</p>
	<p>『<b>紛争地の看護師</b>』 (白川優子 著)          「誰かに伝えたいと思った。知ってもらいたいと思った。」国境なき医師団の看護師として紛争地で活動する作者の言葉が胸に響きます。 (小学館)</p>
	<p>『<b>逆ソクラテス</b>』 (伊坂幸太郎 著)          5つの短編集、主人公は小学生。「敵は先入観。世界をひっくり返せ！」心に響くフレーズがあふれています。力をもらえる一冊です。 (集英社)</p>

[他の本もホームページで紹介しています。ぜひ見てください。](#)